

# 令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【上里小学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策	
知識・技能	学習したことを定着させるために繰り返し練習問題に取り組みたりその時間を確保したりすることに加えて、児童1人ひとりの実態に合わせた問題の難易度や学習方法の手立ての工夫が必要である。児童自身が自分にとって最適な学習方法を選択できるように学び方を複数提示したり、ICTを活用して自分の苦手な分野を把握した上で問題に取り組んだりする場を設定する。	
思考・判断・表現	粘り強く考えたり本当に必要な情報や資料を選んだりすること、考えたことを自分の言葉で伝えることに課題がみられる。自分の考えを表現するために、選択肢やヒントカードの提示、ペアやグループ活動の活用、手書きやICTの選択等、学習活動や方法の工夫について重点的に取り組んでいく。また、その選択を児童自身が自分の実態に合わせてできるよう支援するための手立てや、協働的な学びをより充実させるために児童の自主性を引き出す授業改善について検討していく。	

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<学習上の課題>各学年で習得する知識・技能の定着に個人差がみられる。 <指導上の課題>児童の実態に応じた課題設定や、児童に対する課題の意識づけをふまえた学習活動の工夫。	⇒ 既習事項の振り返りや学習内容を活用・把握したり、読んだ経験を重ねたりすることができる学習活動の工夫を行う。また、業前活動の取組と連携させ、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。それらの工夫や活用方法等を共有し、他教科に生かせるようにする。【令和6年度さいたま市学習状況調査の「知識・技能」に関わる領域において正答率が80%以上】
思考・判断・表現	<学習上の課題>全国学力・学習状況調査において記述式の無解答率が高い。 <指導上の課題>児童の主体性を引き出す学習活動の工夫。課題に沿った振り返りの場の設定。	⇒ 思考を可視化して、表現し、考えを伝え合うことで、比較・検討する協働的な学びの場を設定する。語彙表「ことばのたね」を授業の学習活動に取り入れ、宿題・家庭学習等で活用できるような事例を提示したりし、語彙表・表現力を高める。それらの工夫や活用方法等を共有し、他教科に生かせるようにする。【令和6年度さいたま市学習状況調査において、「思考・判断・表現」に関わる平均解答率が90%以上】

⑤	評価(※)	授業改善策の達成状況
知識・技能	B	既習事項の振り返りや学習活動や流れの見直しをもつ時間の確保を徹底し、学習内容や課題の意識づけにつなげることができた。特に高学年では、児童自身で自分に合った課題を選択したり協働的な学びのための相手を適切に選んだりすることができるようになった。 令和6年度さいたま市学習状況調査の「知識・技能」に関わる領域において、平均正答率80%を上回る項目はなかった。どの学年・教科においても60~70%の平均正答率だが、特に5・6年算数・理科に課題がみられる。
思考・判断・表現	B	思考の可視化・考えの共有・比較や検討をし合う時間の確保を通して、協働的な学びにつなげることができた。個人で考えたグループで話し合ったりする等の学び方だけでなく、ノートへの手書きやタブレットで入力をする等の表現方法においても児童自身に選択させる工夫をすることができた。 令和6年度さいたま市学習状況調査の「思考・判断・表現」に関わる領域において、ほとんどの学年・教科で平均解答率が90%を上回っており、無回答率が低くなってきた。4年生国語の無回答率0%のように、どの学年や教科においても、自分の考えをもったり表現したりできるように指導していく必要がある。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語の「言葉の使い方や使いに関する事項」について、特に「主語・述語の関係」「漢字」の問題に課題がみられた。基礎的・基本的な知識の定着を図るとともに、それらを日常において活用する力にしていける必要がある。算数では与えられた式の計算はできるが、立式になると問題文を読み取って計算式を組み立てることにつまづきが見られる。 言葉に触れる機会を増やしたり、文章の構成を意識させた学習活動をしったりする授業や式につながる語彙・言葉の理解を深めさせたりする授業を今後も継続していく。	
思考・判断・表現	国語において、指定された条件で説明する問題では正答率が高いが、他の資料や考えを指定された条件で説明することに課題がみられる。また、算数において、立式にいたるまでの文章の読み取りや、必要な情報を選択する力を育む必要がある。他者の考えや資料をふまえて考えたり協働的な学びの時間を確保したりして、「なぜそうなるのか」を明確にしながら論理的に思考し、自分の考えを表現する活動を重視していく。	

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	中学年では、前年度と比較して算数の知識・技能においては定着がみられたが、国語の言葉や漢字の使い方等について課題がある。高学年においても、算数の計算する力は定着がみられたが、国語の文法や心情の読み取り等に課題がみられた。 学習した内容に繰り返し取り組んだり、言葉や文に楽しみながら触れる機会を増やしたりしていく必要がある。	
思考・判断・表現	中学年では、国語の「読むこと」に関する平均正答率が低い。それに伴って、算数の「データの活用」においてもつまづきが見られる。高学年においても、社会のグラフを読み取る問題等、知識・技能を活用する問題に課題がみられる。 既習した言葉や計算を定着させた上でその知識を活用できるよう、多様な資料を用いた学習活動や、個人の課題に合った問題に取り組む時間・協働的に学び合う時間等を確保する。	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	漢字や計算等の学習活動の反復・習熟に取り組み、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図った。 語彙表を低・中・高学年ごとに作成し、児童の実態に合わせた使用方法で授業に取り入れた。他教科にわたって活用できるよう、教科書やタブレットのデスクトップに貼り付けたり、教室に常設をしたりする等の工夫をした。	変更なし
思考・判断・表現	B	教科横断的に、児童同士の意見交流や共同編集等の経験ができるような学習活動を取り入れた。資料を基に自分の意見をもったり、条件に合わせて表現したりする時間を確保できるようにした。 意見の共有や共同編集等を通して学習への意欲を引き出したり、自主的に活動に取り組む意識を高めたりして、思考したことを自分の言葉で表現できる力をさらに育みたい。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)